

保育者養成課程におけるピアノ初心者へのレッスン支援

— コードネーム・オリズムピックを用いた指導法の提案 —

A support of Lesson for Piano beginners in Child Care Training course
— Approach to Teaching Method with the code name, and Orhythmpic —

磯部 澄葉

Sumiha ISOBE

1. はじめに

音楽は子どもの成長を支える重要な教育の一つであり、保育現場では音楽活動の需要性が高い。また、幼稚園実習および保育所実習、採用試験でピアノを中心とした楽器演奏が求められるなど、保育者に演奏力や弾き歌いの技術が必要とされている（佐藤，2005）。

では、実際に保育現場で求められているピアノ演奏とはどのようなものなのだろうか。大地（2008）によれば、採用試験時のピアノ実技試験において重視される要素は、幼稚園では一番に「ピアノの基礎技術」、次に「即興力」であり、保育所では「音楽性」が一番高く、次に「即興力」であった。また中野・河野（2012）は、福井県内の幼稚園・保育所150箇所を対象とした保育現場で必要とされる音楽能力調査で、「平易な弾き歌いができること」が一番高く、次にメロディーだけの譜面に伴奏がつけられる等の「楽曲のアレンジ能力」であると指摘している。更に、彼らの行った研究の自由記述には、有用な知見が含まれると考えられるので、以下に取り上げる。

「子供の作った歌に即メロディーに替えあげたり、まとめるための（自然に集

まってこれるような)楽しいリズムを適切に提供できる能力」「教則本の段階ではないので、少ない練習でもすぐ弾けることのほうが重要」「コードを見て弾ける力があるとよい。伴奏がサッとつけられることが理想」「音楽の楽しさを伝えてほしい。そのためには、音楽が好きで音楽の素晴らしさを伝えてくれるような感性とテクニックが必要になってくる（中野・河野，2012より抜粋）」。

すなわち、これらの研究結果をまとめると、保育現場で保育者に求められる音楽能力は、演奏技術はもとより、読譜力、リズム感、初見力、コードネームを用いた伴奏のアレンジ力、豊かな表現力などといえる。したがって、保育者養成課程における音楽の授業では、実習や採用試験に向けてのピアノ実技指導をはじめ、将来学生が就職した際に保育現場で実際に活用できるような音楽技術や表現力、その場の雰囲気に合わせて伴奏がつけられる能力等、様々な応用力やアレンジ力を身に付ける指導が必要となる。

近年、保育士養成課程におけるピアノ初心者の割合は増えている（松本，2001）。筆者

の勤務する大学でも年々ピアノの未経験者の入学が増えており、2009年度から2013年度までの過去5年度分の入学時アンケートを分析したところ、ピアノ未経験者の割合が、過去平均で10%、大学進学のためにピアノレッスンを開始したレッスン歴1年未満の学生を含めると平均13%、2年未満を加えると平均は24%であった。このように、保育者養成課程でピアノ学習を開始する学生は、ピアノに苦手意識を持っているものが多い。また、初心者が保育現場の求めるようなレベルに達するまでにはかなりの努力が必要であり、学生たちの動機づけを維持するために指導者は限られた時間内での適切な指導や、やる気を促すような言葉かけをしなければならない。

そこで本研究では、まず研究Ⅰで主に過去5年度分のレッスンデータより、コードネームや、田村・岩瀬(1996)のオリズムピック(Figure 8 参照)などの様々な音楽指導を取り入れた保育士養成課程のピアノ初心者への指導法を提案する。次に研究Ⅱではアンケート調査を実施し、研究Ⅰで提案した指導法に関しての有効性を探る。

2. 研究Ⅰ 過去5年度分の蓄積データから見た指導法の提案

筆者の勤務する大学の保育者養成課程では、1年前期より「音楽A」、後期に「音楽B」、2年前期に「音楽C」と1年半に渡り、技術の習得や弾き歌いを中心としたピアノレッスンを行っている。「音楽A」「音楽B」「音楽C」の授業では、学科内共通の教材として「バイエルピアノ教則本(出版社の指定は無し)」および「心を育む子どもの歌(2005, 教育芸術社)」のテキストを使用している。バイエルでは、78, 80, 81, 82, 83, 85, 86, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 96, 97, 98, 99, 100, 102, 104, (105, 106) 番を必須の

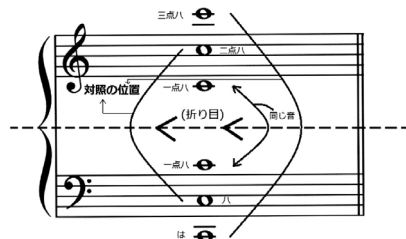
課題とし、初心者や中級者には個々のレベルに応じて8, 9, 10, 12, 18, 21, 29, 32, 38, 44, 46, 48, 49, 50, 55, 56, 59, 60, 62, 66, 67, 72, 76番などの曲にも取り組んでもらうようにしている。

本研究では、2009年度前期から2013年度前期までのピアノ未経験者(ピアノ初心者)29名ⁱ⁾の授業記録の個人データを基に分析を行った。

① 楽典・ソルフェージュを取り入れたピアノレッスン

ピアノ初心者にとって最初の関門は読譜である。練習をしたくても楽譜が読めなければ自ら練習に取り組むことができない。そこで「音楽A」の初心者クラスでは、1～8回目の授業において楽典・ソルフェージュを取り入れたピアノレッスンを行っている。楽典・ソルフェージュの内容は、目印音の学習(Figure 1 参照)、音読み練習(Figure 2 参照)、音の長さの計算練習(Figure 3 参照)、リズム打ち練習(Figure 4 参照)、聴音練習(Figure 5 参照)、音楽記号の理解(Figure 6 参照)、拍子当て練習(Figure 7 参照)などの様々な要素を含むよう心掛けている。このように、バランスよく楽典やソルフェージュを学ぶことで初心者の楽譜理解力を高め、少しでも早く自立してピアノ練習が進められることを目標としている。

Figure 1 目印音の図例



i) 筆者が授業を担当したピアノ初心者を対象としている。

Figure 2 音読み練習問題例

・()のなかにおとのなまえをかきましょう。

() () () () () () () ()

() () () () () () () ()

出典：遠藤（1998）『小学生のためのおんぶワークブック 3』, p.10.

Figure 3 音の長さの計算練習問題例

・()のなかにおんぶでこたえをかきましょう。

♪ + ♩ = () ♩ + ♩ = ()

— + — = () ♩ + ♩ = ()

♪ - ♩ = () — - ♩ = ()

γ + γ = () ♩ + ♩ + ♩ = ()

出典：遠藤（1998）『小学生のためのおんぶワークブック 3』, p.31

Figure 4 リズム打ち練習問題例

👐 いただきましょ

出典：板東・石川・池田（1991）『楽典・聴音・ソルフェージュが同時に学べる週に一度のおんがくワーク上巻』, p.50.

Figure 5 聴音練習問題例

出典：板東・石川・池田（1991）『楽典・聴音・ソルフェージュが同時に学べる週に一度のおんがくワーク上巻』, p.65.

Figure 6 音楽記号の理解問題例



つぎのきごうといみをせんでむすびましょ

<i>f</i>	・	・	だんだんつよく
<i>mp</i>	・	・	よわく
<i>mf</i>	・	・	ややつよく
<i>p</i>	・	・	だんだんよわく
	・	・	つよく
	・	・	ややよわく



きごうをだんだんつよくなるようにならびかえましょ

mp *mf* *p* *f*

() - () - () - ()

出典：板東・石川・池田（1991）『楽典・聴音・ソルフェージュが同時に学べる週に一度のおんがくワーク上巻』, p.47.

Figure 7 拍子当て練習問題例

出典：遠藤（1998）『小学生のためのおんぶワークブック 3』, p.6.

初心者クラスでの1回目の授業では、楽譜の理解と、楽譜の音を実際にピアノの鍵盤に置き換えて弾く力を習得しなければならず、楽典とピアノ演奏をいかに上手く組み合わせで指導するかが問われる。そこで、以下に例として楽典とピアノ演奏を交互に取り入れた1回目の授業の流れを記載する。

《初心者クラスにおける一回目の授業の流れ》

楽典1 目印音の学習

- (1) 楽譜上のベースラインとなる「一点ハ（中央のド）」の理解。
- (2) 他の音符を読む際の目印音「は」「ハ」

「二点ハ」「三点ハ」の理解。折り紙のように高音部譜表ⁱⁱ⁾と低音部譜表ⁱⁱⁱ⁾の間を折り目として半分に折り、「ハ」と「二点ハ」、「は」と「三点ハ」が対照の位置にあることを確認。(Figure 1 参照)

- (3) 「一点ハ」から「二点ハ」までの音符を四分音符で五線譜上に書き、伊語、独語、英語、日本語での音の読み方を指導。

ピアノ演奏 1

- (4) 椅子の高さや演奏姿勢などの確認。
- (5) ピアノでの「ド」の位置を指導。右手でピースサインをしてもらい、中指と人差し指の二本の指が黒鍵にあたる位置を探す。中指を黒鍵ミ♭に、人差し指を黒鍵レ♭に乗せ、親指で隣のドの音を弾き、鍵盤上の全てのドの位置を当てる。
- (6) 次に「一点ハ」の位置および、「は」「ハ」「二点ハ」「三点ハ」の位置を、楽譜と照らし合わせながら指導。

楽典 2

- (7) 四分音符、八分音符、二分音符、付点二分音符、全音符、四分休符、八分休符、二分休符、付点二分休符、全休符など、音符および休符の長さを説明。

ピアノ演奏 2

- (8) 指を動かす練習。

両手の手のひらを合わせて、親指から小指に向かって指番号1・2・3・4・5と説明し、指導者が言う番号の指のみを離す動作をする。次に、両手を触れずに向かい合わせた状態で、指導者の言う番号の指を

つける動作を行う。最後に両手を机の上に置き、ピアノを弾く上での理想的な形を意識するよう促しながら、指導者の指示する番号の指を実際に鍵盤を弾く時のように動かす。

- (9) バイエル8番の音符を階名^{iv)}で声に出しながら歌う。
- (10) 上記(9)に机の上で弾く手の動作を加える。その際、指番号にも注意を促す。
- (11) バイエル8番を実際にピアノで演奏する。

※バイエル8番に続いて、バイエル9番・10番を個々のレベルに合わせて、上記の(9)から(11)の流れで練習と指導を行う。

なお、「音楽A」「音楽B」「音楽C」の授業では、90分の時間内に約8名の学生を指導しなければならない。そのため、1回目の授業で特に読譜の基礎をしっかりと伝えることで、読譜の知識が皆無の学生に自ら楽譜を読んで練習する意欲が現れ、2回目以降の授業が円滑に進むことを目的としている。

以下に具体例として、学生Fの「音楽A」「音楽B」「音楽C」(2011年度前期～2012年度前期)の授業進行表を記載する(Table 1 参照)。授業では、個々のレベルに応じてアレンジ伴奏の指導も加えている。各授業の8回目・15回目^{v)}の試験では幼児への適切な言葉掛けや指導法を考え、演奏する際に試験曲に適した導入やアレンジ伴奏を加えて発表してもらおう。

ii) ト音記号(高音部記号)の付された譜表。

iii) ヘ音記号(低音部記号)の付された譜表。

iv) 階名には、「移動ド」と「固定ド」があるが、上記では「固定ド」を示す。

v) 2013年度より最終試験は16回目に実施している。

保育者養成課程におけるピアノ初心者へのレッスン支援（磯部 澄葉）

Table 1

	音楽A（1年前期）			音楽B（1年後期）		音楽C（2年前期）	
	バイエル	弾き歌い	楽典・ソルフェージュ、コードネームなど	バイエル	弾き歌い	バイエル	弾き歌い
1回目	⑧ ⑨ ⑩		①目印音の学習 ②ワーク ・音符と休符の長さの理解1 (前述, ≪1回目の授業の流れ≫参照)	⑧⑧ 89 90	もみじ	100 102 104	チューリップ
2回目	⑫ ⑬ ⑭ ⑮	ちょうちょう	①ワーク ・音読み練習問題1 ②音符と休符の長さの理解2 ③コードネーム1	⑧⑨ ⑨⑩ 80	もみじ	⑩⑩ 102	チューリップ
3回目	⑲ ⑳ ㉑	ちょうちょう かたつむり	①ワーク ・音読み練習問題2 ②コードネーム2 ③音楽記号の理解1 ④オリズムピックを用いたリズム打ち練習 (Figure 8)	⑧⑩ ⑩⑪	もみじ 松ぼっくり	⑩⑩ ⑩⑪	山の音楽家
4回目	⑳ ㉑ ㉒ ㉓	かたつむり ふんぶんぶん	①ワーク ・音読み練習問題3 ・リズム打ち練習問題1 ②コードネーム3 ③音楽記号の理解2	⑧⑪ ⑨⑫	もみじ 松ぼっくり	105	山の音楽家
5回目	㉔ ㉕ ㉖	ふんぶんぶん	①ワーク ・音読み練習問題4 ・音の長さの計算練習問題1 ②拍子記号の理解	⑧⑫	まっかな秋	105 106	山の音楽家
6回目	㉗ ㉘	とんぼのめかね	①ワーク ・拍子記号当て練習問題1 ・音の長さの計算練習問題2	⑧⑬ 94 95	まっかな秋	105 ⑩⑥	楽しいね
7回目	55 60	やきいもグーチーパー	①ワーク ・音読み練習問題5 ・拍子記号当て練習問題2 ②聴音1	⑧⑭ 95	まっかな秋	105	楽しいね
8回目 (中間 試験)	60	やきいもグーチーパー	①ワーク ・リズム打ち練習問題2 ②聴音2	95	松ぼっくり まっかな秋	⑩⑦	山の音楽家 楽しいね
9回目	55	どんぐりころころ		⑧⑮	赤鼻のトナカイ 荒野の果てに		

10回目	56 ⑥2	どんぐりころころ		96	赤鼻のトナカイ 荒野の果てに	おべんとう Happy Birthday To You
11回目	56 66 67	たき火 海		97	赤鼻のトナカイ 手をたたきましょう	おべんとう おかえりのうた
12回目	70 71 72	たき火 七夕		98	赤鼻のトナカイ 頭かたひざボン	おべんとう おかえりのうた カブトムシ/aiko
13回目	76	たき火 七夕		98	シャボン玉 頭かたひざボン	おかえりのうた カブトムシ/aiko
14回目	78	たき火 切手のないおくりもの		99 100	シャボン玉	おかえりのうた カブトムシ/aiko
15回目 (最終 試験)	78	たき火 切手のないおくりもの		99	シャボン玉 赤鼻のトナカイ	おかえりのうた カブトムシ/aiko

※1. ○印で囲まれている曲は、そのレッスン時に合格したことを表している。

※2. 下線は、以前合格した曲を試験で再度演奏したことを示している。

※3. 斜め線は、「休み」を示している。

上記の授業進行表より、弾き歌いには「かたつむり」や「とんぼのめがね」「やきいもグーチーパー」「たき火」「切手のないおくりもの」など、音符に付点のつく曲が多くみられる。

高橋（2009）は、初心者に見られやすい“つまずき”の一つとして、リズムがとれないことを指摘している。例えば、四分音符1つ分の長さ、十六分音符4つ分の長さは等しいということを学習済みであっても、ピアノで演奏する際には異なるリズムで弾いてしまいやすいという（高橋，2009）。この指摘は保育現場の現状と照らし合わせるとわかりやすい。幼稚園や保育園では、朝の会で「おはようのうた」、お昼に「おべんとう」、帰りの会で「お帰りの歌」がよく歌われている

（小澤，2009）が、それらの曲は全て、付点八分音符と十六分音符の、いわゆる「タッカ」のリズムを含んでいる。タッカのリズムはレッスン経験の有無に関わらず、演奏者にとって適当になりがちなりズムであり、初心者にとっては拍子取りにくいと感じる最初のリズムである。そこで、田村・岩瀬（1996）の考案した拍感を育て身体で感じる指導を目的とした子ども向けテキスト「オリズムピック」（Figure 8 参照）を利用した指導法を提案する。これは、Figure 9 の譜例1「おべんとう」のリズム①のような「タッカ・タタ」と感じ取るリズムを「ホットチチ」、Figure 10 の譜例2「おかえりのうた」のリズム②のような「タッカ・タッカ」と感じ取るリズムを「ホットドック」など、言語に置き換える方

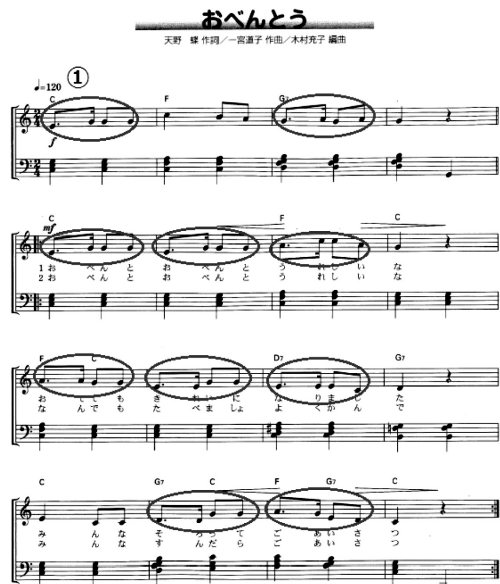
法である。近年では「タッカ・タッカ」のリズムを「キットカット」や「Hot motto（ホットモット）」など、各年代にあわせた言葉に替えるとより理解しやすい。そうすることによってリズムに親しみやすくなり、子どものみならず大人でも拍子を取りやすくなる。

Figure 8 オリズムピック



出典：田村・岩瀬（1996）『リズムピック レベルA・レベルB』より抜粋および改編。

Figure 9 譜例 1



出典：南・今村・今川（2006）『心を育む子どもの歌』, p.8.

そこで、初心者クラスの授業では、リズムピックを用いたピアノレッスンを行うことで、園で歌われやすい曲を初心者の方が1曲でも多く弾けるよう工夫している。

Figure10 譜例 2



出典：南・今村・今川（2006）『心を育む子どもの歌』, p.9.

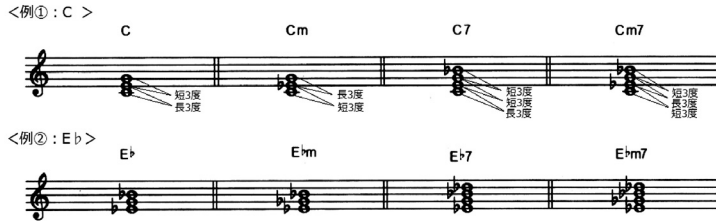
② コードネームを用いたピアノレッスン

先述したように、ピアノの弾き歌いは、保育者にとって必要不可欠である。しかし、ピアノを弾きながら歌うことは容易なことではない。ピアノ学習者であっても、歌を加えることはピアノ演奏に多少の影響をおよぼし、難易度が上がる。また保育者には、単なる弾き歌いの技術だけではなく、子ども達の様子を見ながら弾き歌いができることが求められている。初心者にとっては、譜読みをしてピアノを両手で弾くだけでも大変なことであり、それに歌を加えることは至難の業である。そこで、初心者でも早く弾き歌いできるように、コードネームを用いた伴奏法の指導を行っている。

Table 1 の 2 日目の楽典・ソルフェージュ

③ コードネーム 1 では、三和音⁽⁴⁾についてや、長3度・短3度からなるコードネームの

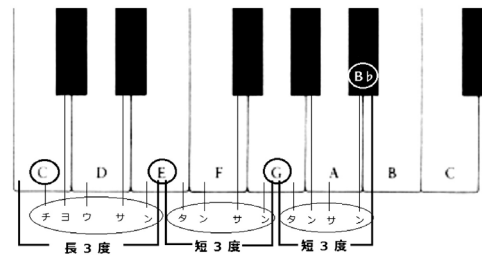
Figure11 コードネームの例



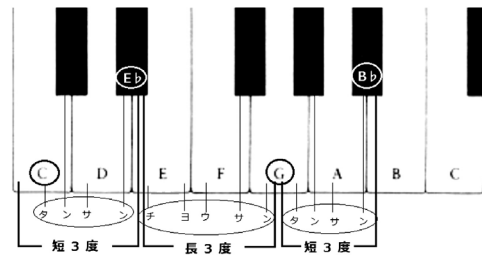
仕組み、メジャー（根音）→根音から長3度上の音→その音からさらに短3度上の音のできる和音）・マイナー（根音→根音から短3度上の音→その音からさらに長3度上の音のできる和音）・メジャーセブン（メジャーに短3度を加えた和音）・マイナーセブン（マイナーに短3度を加えた和音）を説明し、全ての調で上記4種のコードを答えられるようにすることを旨とする（Figure11参照）。その際に、長3度は「チ・ヨ・ウ・サ・ン」、短3度は「タ・ン・サ・ン」と数えることを指導すると良い。つまり、数え始めるその音から「チ・ヨ・ウ・サ・ン」と鍵盤を半音ずつ上がり、「ン」の時の音が長3度上の音になる。短3度も同じく、数え始める音から「タ・ン・サ・ン」と半音ずつ上がった「ン」の時の音が短3度上の音になる。例えばC7の場合、「ド」の音から長3度「チ・ヨ・ウ・サ・ン」と上がると「ミ」の音になる。その「ミ」の音から短3度「タ・ン・サ・ン」と上がると「ソ」の音になる。さらに、その「ソ」の音から短3度「タ・ン・サ・ン」と上がると「シ♭」になり、C7はド・ミ・ソ・シ♭の和音となる（Figure12参照）。

Figure12 長3度、短3度の数え方

<メジャー系>



<マイナー系>

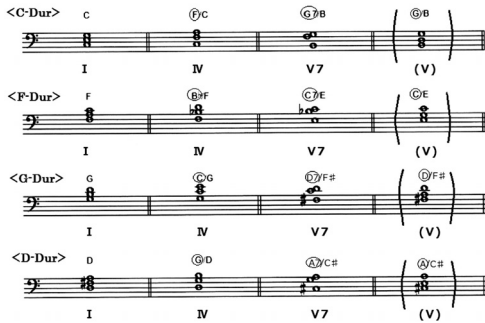


なお、Table 1の3日目の楽典・ソルフェージュ②コードネーム2では、C-Durのスリーコード（主要三和音）や転回形を説明し、I→IV→V7（またはV）→Iのカデンツァ^{vii}を指導する。4日目の楽典・ソルフェージュ②コードネーム3では、上記のC-Durに加え、Figure13のF-Dur、G-Dur、D-Durのカデンツァを指導する。

vi) 根音(脚注V参照)、第3音(根音の音から数えて白鍵を3つ上がった音)、第5音(根音の音から数えて白鍵を5つ上がった音)の三つの音からなる和音のこと。例：「ド・ミ・ソ」、「レ・ファ・ラ」など
vii) 「C」=ド、「D」=レ、「E」=ミ、「F」=ファ、「G」=ソ、「A」=ラ、「B」=シ、「C#」=ド#、「C♭」=ド♭など。

viii) Iを含むT（主和音、トニカまたはトニック）、IVを含むS（下屬和音、サブドミナント）、V・V7を含むD（属和音、ドミナント）の和音によって起承転結をつくる和音進行のこと。

Figure13 C-Dur, F-Dur, G-Dur, D-Durの
スリーコード(主要三和音)



※コード伴奏には既製楽譜のように弾く高さの指定はないため、右手とのバランスなどを考慮し、各曲に適した位置で弾くよう指導する。

保育現場でよく歌われている「生活の歌」や「季節の歌」には、C-Dur, F-Dur, G-Dur, D-Durが多く含まれるため、この4つの長調のカデンツァを習得すれば、かなりの曲数の弾き歌いが可能となる。現在、筆者の勤務する大学で使用しているテキスト「心を育む子どもの歌」には、C-Durの曲が30曲、F-Durの曲が27曲、G-Durの曲が10曲、D-Durの曲が9曲あり、合計すると弾き歌い曲87曲のうち76曲が当てはまっていることになる。その他の11曲は、E♭-Dur, c-moll, A-Durなどであった。カデンツァの仕組みを理解できれば、C-Dur, F-Dur, G-Dur, D-Dur以外の調の曲にも応用することができるようになる。授業初期では、伴奏は基本的にそのコードネームの和音を伸ばして弾き、各小節の一拍目および、小節内でコードネームが変化する時にコード（和音）を変えて弾き直すスタイルで行う。学生一人一人の進度に合わせて、和音を弾くことが難しい学生には、コードネームの根音のみを伸ばして弾く方法を指導し、弾ける学生には伸ばしていた和音を細かく拍に合わせて刻んでみたり、アルペジオ^(k)などの分散和音^(x)で弾いてみたりと応用の仕方を指導していく。また、1曲の中に

スリーコード以外のコードが出てくる時は、そのコードで演奏することが推奨されるが、だいたいのコードはその調のスリーコードに変換することができる。初心者でピアノに慣れていない場合には新しい和音が一つ増えるだけで弾きにくさが増すため、できる限りスリーコードに変えて弾いた方が良い。例えば、Figure14の譜例3「松ぼっくり」では、F, B♭, C7 (C) がスリーコードとなるが (Figure13参照)、スリーコード以外にG9のコードが出てくる。この曲の場合には、G9をFに変えて弾くことが可能である。

Figure14 譜例3

松ぼっくり
高山孝夫 作詞 / 小林つや江 作曲 / 木村亮子 編曲

出典：南・今村・今川(2006)『心を育む子どもの歌』, p.44.

※弾くのが困難な学生には、「C7」と「C」を「C7」または「C」で統一して弾くよう指導する。

コードネームの習得に際し、レッスン初期の段階では、指導者がコードを変換して学生に課題を与える必要があるが、レッスンが進む中で、学生自らがメロディーに合うコードを探し出していけるような指導を心がけてい

- ix) 分散和音の一種。和音を構成する音を、一音ずつ低い音から（または高い音から）順番に弾くこと。
- x) 和音を構成する全ての音を同時に鳴らすのではなく、何度かに分けて鳴らす演奏技法のこと。

る。このような訓練は、中野・河野（2012）が指摘する「平易な弾き歌いができること」、「メロディーだけの譜面に伴奏がつけられる等の楽曲のアレンジ能力」を養うことに繋がると考えられるからである。

また、バイエルにおいてもコードの活用ができる（松宮・野田，1999）。バイエルの左手のコードはスリーコードに似たパターンの和音が多いため、コードネームを理解することでバイエルの譜読みにも役立つと言える。楽譜通りに演奏することも大切であるが、コードネームをマスターすることで自分の技術レベルに合った伴奏にアレンジできたり、伴奏に余裕が生まれて園児たちの様子を把握しながら弾き歌いができたり、気分にあわせて即興ができるようになったりと、保育者の音楽の可能性が大きく広がる点を強調したい。

3. 研究Ⅱ 初心者クラスのレッスンに関するアンケート調査

研究Ⅰで提案した指導法に関する学生の評価を確認するため、2013年度入学の学生のうち、大学入学時よりピアノを始めた学習歴6ヵ月未満の初心者クラスにおいて、「楽典・ソルフェージュ」「コードネーム」を取り入れたピアノレッスンに関するアンケート調査を行った。対象者は、音符の読み方や鍵盤のドの位置などを、全く学んだことのないピアノ初心者8名であった。

以下にその結果と簡単な考察を行う。

① 楽典・ソルフェージュに関するアンケート調査

授業の1～8回目に実施した楽典・ソルフェージュが譜読みをする際に、どの程度役立ったかについて、1. 役立った、2. どちらかといえば役に立った、3. どちらでもない、4. どちらかといえば役に立たなかった、5. 役に

立たなかったの5件法で尋ねた。その結果、「1. 役立った」が7人、「2. どちらかといえば役に立った」が1人であった。

またTable 2は、楽典で譜読みに役立ったと思われるものについての回答である。

特に、目印音の学習、音の長さの計算問題、音楽記号の理解、音読み問題、リズム打ちなどの学習が、高評価であった。それらは、バイエルなどのピアノを学習する上でまず必要となる知識でもあるため、評価が高かったと言えるであろう。また、今年度、初めて聴音を初心者クラスで試みた。聴音は音の高さや長さ、音符の理解などを把握している上で出来ることであり、大学でピアノを学び始めた初心者の学生にとっては難しいことであるが、四分音符、八分音符、二分音符、付点二分音符、全音符、四分休符など音符に制限をつければ、「ラ」から「二点ソ」など、広範囲の音でも意外と音取りができることを発見した。本研究の結果、8人中4人が「聴音」が役立つと回答するのも、初心者クラスでは全く予測しなかった結果であった。今後、聴音が初心者に与える影響や可能性について継続して調査していきたい。

Table 2 楽典・ソルフェージュで譜読みに役立ったと思われる学習（複数回答）

目印音の学習（figure 1 参照）	7/8人中
音読み問題（figure 2 参照）	6/8人中
音の長さの計算問題（figure 3 参照）	7/8人中
リズム打ち（figure 4 参照）	6/8人中
聴音（figure 5 参照）	4/8人中
音楽記号の理解（figure 6 参照）	7/8人中
拍子当て問題（figure 7 参照）	4/8人中

② オリズムピックに関するアンケート調査

次に、Table 3に、オリズムピック（Figure 8）についての利用してみた感想や意見を自

由記述を示した。記述を見る限り、概ね高評価であった。

オリズムピックに関しては、レッスンを受ける学生の立場からも、指導する側の客観的視点で見ても、学生への効果がすぐに確認できたため、子どもに限らず大人のピアノ教育においても有効性が示されたと言える。しかし、少数ながら、余計にリズムがわからなくなってしまうという事例もあるため、学生の状況を見ながら、臨機応変に対応する指導が必要である。また、より汎用性の高い指導法として確立するために、オリズムピックで混乱をきたす学生の性格的な特徴や、混乱する理由、混乱の結果生じる状況などを確認し、対応策を考えることを今後の課題としたい。

Table 3 オリズムピック利用についての学生の感想や意見

F1	少し取りやすくなりました。
F2	初めはできなかったけど、このリズムうちで弾けるようになりました。
F3	普段使っている言葉におきかえているので、わかりやすくなりました。
F4	楽しくリズムが取れると思いました。
F5	リズムが取りやすくなったのもあったが、逆に分からなくなったのもあった気がします。
F6	おべんとうのときにホットチチを使ってリズムがわかるようになりました。
F7	とてもわかりやすいと思いました。
F8	リズムが取りやすくなりました。家でやるときにも思い出せて良かったです。

③ コードネームに関するアンケート調査

C-Dur, F-Dur, G-Dur, D-Dur (figure 13参照) など、コードネームの理解度について、1. 理解できた、2. どちらかと言えば理解できた、3. あまり理解できていない、4. 理解できていないの4件法で尋ねた。その結果、「1. 理解できた」が1人、「2. どちらか

と言えば理解できた」が6人、「3. あまり理解できていない」が1人、「4. 理解できていない」が0人であった。

またコードネームを使用して、童謡の曲の伴奏ができそうかを尋ねたところ、「1. できそう」が3人、「2. どちらかと言えばできそう」が1人、「3. あまりできなさそう」が4人、「4. できなさそう」が0人であった。その他、弾き歌いの曲を楽譜に沿って弾く方法とコードネームを利用する方法では、どちらが弾きやすいかという問いでは、「1. 楽譜通りが弾き歌いしやすい」「2. どちらかといえば楽譜通りの方が弾き歌いしやすい」「3. どちらも変わらない」が0人、「4. どちらかといえばコードネームを使用した方が弾き歌いしやすい」が4人、「5. コードネームを使用した方が弾き歌いしやすい」が4人という結果であった。

コードネームに関しては、授業内で概ね理解ができていたようである。しかし、単独で実践に移すことに関してはまだ自信を持っていない学生が半数ほど見られた。その理由として、少しずつピアノが弾けるようになり自信がついてきていても、まだ経験が浅いため、本当に音やリズムが合っているのかが不安であるという声が個別のインタビューで複数聞かれた。このような不安を取り除くことは容易ではなく、時間と経験が必要とされるものである。

④ 自由記述

最後に、ピアノ学習に関する学生の自由記述での感想をTable 4に示す。記述を見る限り、概ね高評価であった。

Table 4

F1	ピアノを始める前は音楽（特にピアノ）に苦手意識があったのですが、先生に教えてもらってから、ピアノを練習するのがとても楽しく感じるようになりました。
F2	全くピアノをやったことなかったのに少し弾けるようになったから、もっといろんな曲が弾けるようになりたいと思うようになりました。
F3	最初は苦手意識が強くあまり好きではなかったけど、弾けるようになってすごくピアノが好きになりました。練習するのも好きです。テストは緊張するけど、友達の前で弾いたりするのもすごく好きになりました。もっと知ってる色んな曲を弾きたいと思いました。
F4	ピアノは楽しい。特にたくさん練習した曲を弾いている時に楽しいです。昔弾いてもらっていた曲を弾くのが楽しいです。
F5	前はピアノに触ったことがなく、自分に弾けるかとても不安でしたが、やっていくうちに弾き歌いも少しできるようになったと思うと自分に少し自信ができました。
F6	ひまがあったらピアノをやろうと思うようになった。前は絶対ひけないと思ってたけど、今は練習したらできるようになるかなって思うようになった。
F7	こんなに複雑な楽器だと思わなかった。
F8	ピアノは思っていたよりもリズムを取ることが難しく、大変でした。今まで全くやるのがなかったので、ピアノに興味がありませんでしたが、今は空き時間にやろうかなという気になるほど興味がわいてきました。

4. まとめ

保育現場より保育者としてのピアノ技術が求められる中、保育者養成課程でのレッスン時間は限られており、特に初心者にとっては大学で初めて学ぶことを、実践の場ではプロとして対応しなければならないという大変厳しい状況にある。養成課程によっては、入学前教育として「ピアノ初心者向け講座」を行っているところもある（奥，2013）。筆者の勤務する大学では1年半で基礎および応用力を指導していかなければならない。その限られた授業数の中で効率良く学生に習得してもらうには、学生の意欲に加え、指導者側の指導

力と有効なカリキュラムが必須であることは言うまでもない。今後は、初心者に向けての楽典やソルフェージュの指導計画・指導案の作成、またコードネームの習得が保育現場のニーズに合致している現状を述べて、より効率的な指導法の考案を課題としたい。

【参考文献】

- 板東貴余子・石川淑子・池田典子『楽典・聴音・ソルフェージュが同時に学べる週に一度のおんがくワーク上巻』1991年、ドレミ楽譜出版社。
- 遠藤蓉子『小学生のためのおんぶワークブック3』1998年、サーベル社。
- Ferdinand Beyer『バイエル・ピアノ教則本 New Edition「やさしい楽典」付』2006年、伊藤康英編、音楽之友社。
- 紙屋信義・後藤みゆき「ピアノによる子どもの歌伴奏の効果ーアレンジによる伴奏法を考えるー」『東京未来大学研究紀要』2008年、第1号、pp.67-75。
- 松宮敬・野田正純「ピアノ指導者における「コードネーム」の活用」『九州女子大学紀要 第36巻1号』1999年、pp.41-50。
- 松本 俊穂「ピアノ初学者の基礎技術習得の実態とコンピュータシステムによるCAI学習法の現状と課題」『幼児教育. 特別号』2001年、pp.42-56。
- 南曜子・今村方子・今川恭子『心を育む子どもの歌ー幼稚園/保育園/小学校/幼稚園教諭・保育士・小学校教諭養成課程ー』2005年第1刷発行、2006年第2刷発行、懶教育芸術社。
- 中野研也・河野久寿「保育現場で必要とされる音楽能力と、幼児音楽教育との関連」『仁愛女子短期大学研究紀要 第44号』2012年、pp.71-78。
- 小笠原真也「ピアノ初心者に対する効果的な伴奏法指導ー教育実習に役立つ実際の指導のための一考察ー」『広島文化短期大学紀要 第40号』2007年、pp.33-46。
- 奥千恵子「保育者養成と演奏技法(Ⅱ)ーピアノ初心者対象の入学前教育の取り組みー」『四天王寺大学紀要 大学院第16号, 人文社会学部・教育学部・経営学部第55号, 短期大学部第63号(抜粋)』2013年、pp.325-341。
- 大地宏子「保育現場で求められるピアノ/音楽技能とは何か?ー保育者養成校におけるピアノ教

- 育の有り様の再考のためにー』『鶴見大学紀要. 第3部 保育・歯科衛生編 第45号』2008年, pp.11-20.
- 小澤和恵「保育所・幼稚園実習で求められる音楽活動の考察ー「生活の歌」と「季節の歌」についてー」『埼玉純真短期大学研究論文集 第2号』2009年, pp.37-46.
- 佐藤敦子「保育者養成校におけるピアノ教育の実態と幼稚園・保育所の実習時及び採用試験時におけるピアノの実態と評価基準」『福島学院大学研究紀要 第37集』2005年, pp.135-154.
- 高橋由季子「ピアノ初心者のつまづきを解消する視点と課題設定ー文化女子大学室蘭短期大学保育科におけるグループ指導の成果ー」『文化女子大学室蘭短期大学研究紀要 第32号』2009年, pp.44-75.
- 田村智子・岩瀬洋子『オリズムピック 感じるリズム学習 レベルA』1996年, 全音楽譜出版社.
- 田村智子・岩瀬洋子『オリズムピック 感じるリズム学習 レベルB』1996年, 全音楽譜出版社.
- 田村智子・岩瀬洋子『ソーヨひめとファーデスおうじ』1997年, 全音楽譜出版社.